

社会福祉事業の父

「澁沢栄一のもう一つの顔と思いに寄せて」

理事長 早川 明

社会福祉法人つるかわ学園
つるかわ学園を支える会
☎195-0051
東京都町田市真光寺町
186番地
TEL (042) 735-2220
FAX (042) 736-6374
HP: tsurukawa-gakuen.com

密閉空間、密集空間、密接空間を避ける三密回避生活と外出自粛で、私もマスク姿で近所のスーパーへ買い物に行くようになりました。入店時には手指のアルコール消毒をします。他人との接触を避けるレジではアクリルフィルムも設けられています。支払はカード支払いが多くなり、現金の出番が無くなりました。ふと気づいたのは昨年十月より消費税10%値上げに伴い、海外に遅れているキャッシュレス決済を広めるためのポイント還元セールが六月三十日で終了したことです。このポイント還元セールと接触予防の効果でどうか、福沢諭吉翁を見ることが少なくなりました。

NHK大河ドラマは澁沢栄一の生涯を描く「晴天を衝け」で主人公は俳優の吉沢亮さんだそうです。
「日本資本主義の父」と言われる澁沢栄一（天保十一年 埼玉県深谷市の豪農の子息として誕生）はアヘン戦争を始め、世界の列強諸国による植民地争奪戦の真只中、江戸幕末動乱の中で、ナポレオン三世の招聘による幕府のパリ万国博覧会視察団の一員に加わりました。そのことが西欧諸国の実情を見聞するターニングポイントになり、掴んだ運をグイグイ引き寄せたのです。
澁沢は「西欧諸国の先進的経済の仕組みを取り入れ商工業を盛んにして、民の繁栄を促し国の繁栄につなげ兵を強くする」の信念を確信した後、乞われて明治新政府の大蔵相に就き近代国家の基礎となる租税制度、貨幣制度、藩札の処理等を行いました。大蔵省を辞した後は、第一国立銀行の設立を足掛かりにし、実に四百八十企業の創設などに関わり、身分制

社会から日本資本主義社会への基礎を構築しました。
澁沢が生涯にわたり論語と経済の一致、道徳があつて実利があると説いたのは、きつと農民であつた自身の屈辱的体験が基底にあり、身分制度社会を壊した平等な社会の誕生を願つたため。またその実現に、自身も生活の規範にしている儒教の教え「論語」を学問のための論語でなく、今生きている現実社会にその教えが反映するよう据えたためだと思えます。人は富や名譽、地位を手に入れたらと思ひ努力するもので、その結果人々の間に貧富の格差が生まれるのは自然なことであり、格差は素直に受け入れるしかない。しかしながら富める者は宿命だからと放置してはならず、他者に対する思いやりの心を以て格差の縮小に努めるのが義務である。なぜならば、そうしなければ人間社会そのものの崩壊を招くからである」と訴えています。江戸時代中期の儒学者、医師であり七年間浪人生活を経験した貝原益軒も「医者志す者は儒学の本を学び理解することが必要である」と、同じように論語の教えを規範にするよう求めていました。

澁沢の数々の業績は、社会事業・教育・医療分野においても目覚ましく、私は「社会福祉事業の父」と称してもよいと思つています。たとえば明治九年、貧民救済事業の東京府養育院事務局長に就いたのを始め、中央慈善協会会長、各協会の組織化、また孤児養護事業での福田会、障害児事業での滝乃川学園、母子事業では愛の家他多くの事業に設立関与してきました。また現場に赴き「みなさんには、是非この良心と思ひやりの道を身に付け、現場で実際に行つてもらいたい」と職員講演で訴えていました。本人八十三歳の大正十二年関東大震災を滝野川の私邸で被災するも、自宅を食糧配給本部として開放して市民救済を行うとともに、人々が安心して日常の生活を送る社会にしたいという考えから、大震災善後会の副会長として東京市の復興に尽力しました。澁沢がいなければ日本の福祉は大きく遅れたに違いありません。
「利益に走つても道徳がなければダメ、道徳があつても利益が出、継続性がなければダメ」と九十一歳の生涯を駆け抜け、近代日本の育成に大きく関与した澁沢栄一ですが、私生活面では「子供たちがすべて私の思うようにならないからといって、親不孝の子供だとは思わないようにしている」と記しています。
人間社会に挑戦してくる新型コロナウイルスは、富める者と貧者の格差先進国と開発途上国の格差、ワクチン確保の国家間格差を炙り出しています。時代的制約もあるでしょうが、澁沢栄一の道徳と経済の一致論を、グローバル社会で適合させ昇華させていかなければ、彼の危惧していた世界的規模での私たち社会の混乱を招いてしまつたのではないかと私なりに憂えています。
紙上ですが、保護者の方、地域の方、会員の方、地域の方、企業の方、各種団体の皆様より手作りマスクも含め、ガウン、寄付金等のご支援を深謝いたします。

各事業所より

つるかわ学園

新型コロナウイルス感染症

予防の取組み

看護主任 小稗 文子

利用者の皆さんは抵抗力が弱い人が多いため、平素から手洗い・清掃と消毒・一日二回の検温は行っていました。今年の一月に中国で謎の肺炎が流行し、当初は未知のウイルスでしたが、しだいに効果的な予防方法が明らかになってきました。予防の基本は密集、密閉、密接の三密を避け、飛沫感染や接触感染、空気感染の予防です。利用者と密着して支援する事が重要なので、新型コロナウイルス対策については苦慮していません。利用者にストレスを与えないような対策が必要です。これを踏まえた学園の具体的な取組みについてお伝えします。日中活動はできるだけ少人数で行い、定期的な換気、手が触れる場所は消毒をおこなっています。手指消毒、手洗いの徹底はもろること、職員においても、会議を行う時はソーシャルディスタンスを考慮し、出勤前に検温、出勤したら手指消毒と手洗い、飛沫をしないようにマスクを着用して勤務をしています。夏季は感染予防に加え、冷房と換気、水分補給を徹底した、熱中症予防についても並行しておこなっています。現在は第二波に備えて、消毒薬、防護服、マスク等の備

蓄や、罹患者が出たときに静養する個室の整備を行います。新型コロナウイルスの有効な治療薬やワクチンはありません。今後しばらくは、新型コロナウイルスと共存した新しい生活様式を模索する必要があります。嘱託医や保健所と連携をとりながら感染症の動向を注視し、利用者皆さんにはストレスが溜まらないような過ごし方、かつ感染リスクを考えた対策を検討していきます。



共同生活援助事業「トリーム」

管理者 外川 珠枝

新年度にたくさんの方の行事や外出企画など計画しましたが、新型コロナウイルス感染拡大のため、すぐに方向転換し「ステイホーム」の中で日常生活全般をどのように支援するか、対応や対策はどのようなか等かなりのエネルギーが必要でした。そんな中、利用者さんがマスク着用や三密回避の理解をされている事にとっても救われています。新しい社会生活にどのような切り替えていくか非常に難しいと思いますが、法人と事業所が一丸となって、感染防止対策を講じながら行っていくかと思っています。

GH主任 大滝 祐輔

新年度、つるかわ学園から三名のスタッフの着任がありました。違う視点からの発想や提案と、長くGHで勤務しているスタッフの安定感と経験が良い方向に融合し、新たな支援が行えていると日々感じています。協力し合い、現在の感染症という異常事態を利用者・職員全員で乗り切れればと思います。

峰村 直美

高齢化に対応した支援 咀嚼機能や嚥下に不安を感じる方の食事形態年齢的に咀嚼機能が低下してきている利用者さんへは、安心・安全に、食事を楽しんでもらう為に、食品そのものの見た目を生かした柔らかい摂食回復支援食を提供しています。毎回「美味しい」と感想を言われ食事は完食されています。

加藤 龍之介

『調理スタッフから支援スタッフへ』 何もかも異なる職種で分からない事もたくさんありますが、一番の違いは、身近に利用者さんの食事を作り「美味しい」「最高」と感想を言ってもらえることです。調理での経験を活かし、毎日の楽しみの一つでもある食事を、より豊かに健康で楽し

んで頂けるようにしていきたいと思っています。

松山 宣史

『グループホームの仕事と経験値』 福祉の業界で働き二十年が経ちました。障害、救護、介護いろんな現場を渡り歩いてきました。そんな自分が今苦戦しているのは料理です。つるかわ学園のグループホームでは手料理を提供します。食は全ての基本です。美味しいと言ってもらえる料理を提供できるようにすべての経験を活かして頑張っています。

豊川 由紀

『異業種からの支援スタッフに』 前職は障害者支援とは全く関係のない業種で働いていました。つるかわ学園で支援スタッフとして一年、この四月よりグループホームのスタッフとして利用者支援をしており、日々の利用者さんとの関わりの中で微笑ましく思う事が多々あります。朝の集いでのラジオ体操や食事提供前の皆様の様子は特にそう思います。皆様が穏やかに安心した生活が送れる様に努めて参ります。



地域生活援助センターフクシア

～今年度の活動について～

主任 上妻 由香

昨年度までは、利用者支援として通常行っている職場訪問、利用者活動の支援、保護者会の開催など年度初めから活動することが多い時期でありました。しかし、今年度は利用者の就労状況や職場環境にもよりませんが、年一回～二回の職場訪問もままならない状況が続きます。利用者が主体のゆいまる活動についても、昨年度の活動報告、今年度の活動を決める集会もコロナ感染状況の中、行うことができず、全体活動を中止し、数名の役員のみで、来年度に向けて、今までの活動の反省や新たな活動に向けての話し合いに充てることとなりました。

また、立川防災館や横浜防災館の体験見学も中止した為、職員が講師となり救急救命講習や防災についての講習を予定しています。

感染対策として、職員全員に勤務に際したマスクの配布や各寮にアルコール消毒の配布。また、感染者が出た場合のマニキュアを作成し、食事提供時にお皿を使用しないように使い捨て弁当箱八〇〇セットや使い捨て手袋など用意しました。

寮生活については、新しい生活様式に準じ、三密にならないように夕食・朝食ともに食堂で食べず、各居室にて食べていただいています。共有部分はマスク着用を義務付けてお

り、相談などは長時間にならないよう、電話やメールを活用しています。利用者の不満として、利用者同士が食堂でご飯を食べられない事が挙げられており、どう改善していくかを検討しています。

今年度は、依然収まらない新型コロナウイルス感染症対策で奮闘する毎日です。



町田市障がい者就労生活支援センター りんく支援センター ソラール

管理者 藤本 英理子

令和二年五月一日より、支援センター ソラールは就労移行支援と自立訓練(生活訓練)の多機能型としてスタートを致しました。新型コロナウイルス感染症防止のための緊急事態宣言発令の直後の開所となり、開所と同時に在宅訓練でのサービス提供を実施する等、利用者の皆様、職員共に戸惑い、試行錯誤の連続となりました。就労移行支援、自立訓練、どちらも利用者の皆様と直接接することで把握する情報がいかに多かったかを改めて考えさせられた部分

と、在宅訓練の導入による新たな事業の可能性を知る部分がありました。

新たな生活様式に合わせて障害者雇用の形態も変化していくことと思えます。ソラールでも、現在、オンラインでの会社説明会参加などを積極的に行っているところです。実際に働く仕事はオンラインでの職務では無いものが多いですが、この先の就職活動にはオンラインツールが必須になっていくものと思えます。ツールを使う側の自己管理、情報管理、課題も様々ですが、利用者の方々の新しい就職活動の形も支えて行くよう工夫して参ります。

新しい生活様式に合わせた取り組みの一方で、自立訓練事業開始の目的、就労移行支援の目的である、社会資源との「繋がり」や「人との関わり」「疑似職場」が無くなることの無いよう、安全に配慮しながら「通所」によるサービスの提供を行い、「通所」の中でしか出来ない取り組みも継続して参ります。実際に体感することでは出来ない事もあり、「体感出来る場」を提供し続けていける事業所でありたいと思えます。

新型コロナウイルス感染防止対策をしながら、今後も様々なことを、体感し、色々な場所に「繋がる」場の提供を目指しサービスの充実を図りたいと思えます。また、就労・生活支援センターりんくでは、新型コロナウイルスの影響による機能の停止等はなく、感染防止対策を取りなが

ら面談、職場訪問その他、就職活動、定着支援を実施して参りました。緊急事態宣言下でも、必要に感じ、訪問した会社からは「この状況にも関わらず支援をして頂き本当に助かりました」などのお話しもあり、どんな状況下でも支援が必要とされる場面があることを実感すると共に、登録者の方の安全に配慮しながら支援ニーズに応える方法を町田市とも検討していきたいと思えます。



つるかわ学園 相談支援センターこころ

管理者 芹澤 政人

地域生活支援拠点等について

新型コロナウイルス感染拡大防止の為、相談支援は、国からの通知で示されている通り、柔軟な対応をしております(計画のモニタリング【実施状況の把握】は、電話連絡等により本人や家族へ確認し記録化等)。都内の感染者数が増えている中、今後も社会情勢を見ながらの支援の調整が求められます。

さて、町田市においては国の考えに基づき、町田市障がい福祉事業計画（第五期計画）に二〇二〇年度末までに地域生活支援拠点等の整備を行うことになっていきます。地域生活支援拠点等とは、障がいのある人の重度化・高齢化や「親亡き後」を見据えた、①親元からの自立等の相談、②グループホーム等の体験・場、③緊急時の受け入れ、④専門的人材の確保・育成、⑤地域の体制づくりの機能を備えた拠点やそれらの機能を分担した面的な支援を行うものです。

市内の障害者・児の総合的な相談支援の受け皿である五つの各地域障がい者支援センターや基幹相談支援センター（相談支援専門員の育成体制、権利擁護・地域移行や地域定着支援等といった、より専門的な相談支援の役割等、町田市では障がい福祉課が役割を担う）にまた相談をもとに、相談者が抱える生活上の悩みや課題を洗い出し、相談支援事業所等と連携していく必要があります。

町田市内には町田市障がい者福祉懇談会や親の会等、多くの団体が活発に活動されています。この拠点等整備をきっかけに、各関係機関とともに町田市全体でより良い支援の体制づくりをしていきたいと考えております。



ご寄贈の御礼

昨今の新型コロナウイルスの流行に伴いマスク等の衛生用品が入手しにくい状況が続いている中、左記の皆様より衛生用品のご寄贈を頂きました。本当にありがとうございます。施設職員一同、心よりお礼申し上げます。

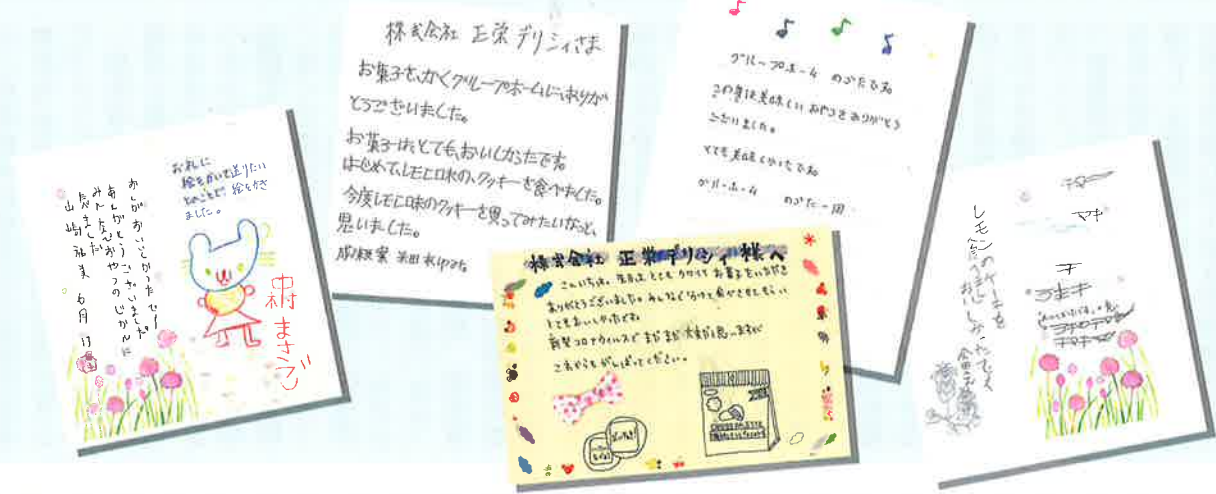
- 東京都福祉保健局 様
- 町田市役所 地域福祉部障がい福祉課 様
- 厚生労働省 様
- はちのき会 大村 様
- つるかわ学園ご家族 匿名 様
- 加納晃 様
(株式会社 東誠 様よりご手配)
- 一般社団法人 東京馬主協会
会長 森保彦 様
- パシフィックサプライ株式会社 様
- 桑原 美次 様
- 東京善慮銀行 様

(令和二年八月現在)

つるかわ学園 ホームページ
日常のようす、行事のお知らせ等がご覧になれます
アドレスはこちら!!
HP: tsurukawa-gakuen.com



株式会社 正栄デリシイ様よりチョコレートのお菓子の寄贈をいただきました。利用者の皆様おしくいたいただきました。ありがとうございます。



つるかわ学園を支える会のご案内

「支える会」について
国家的財政困難と世情不安定の中にあつて、施設も苦しい状況に置かれています。私達は私達なりに苦しさの中にあつても福祉を支える者として努力を惜しまず頑張っています。今一步の力の支えをこつした形で求めるのは本当に心苦しいのですが、市民の皆様の小さな善意はやがて大きな力を生む礎となる事をお約束します。
どうか「つるかわ学園」を支える会にご入会し力を添えてくださいますようお願い申し上げます。

会費

「つるかわ学園を支える会」の会費は、一〇年額三千元ですが、ひとりで何口か入っていただくことを歓迎、お願ひしております。

会員の方々には、毎年三回発行するつるかわ学園の機関誌「つるかわ」をお送りし、学園の様子を続けてご報告するとともに、この人達の幸せを願う者同志としての親交を深めます。

入会方法

入会してくださる方は、振込用紙を学園にご請求下さい。

振替口座番号

〇〇一〇一七七一九四〇二九
加入者
社会福祉法人 つるかわ学園